

たかの呼吸器科内科クリニック 高野義久

要約

1. 未成年者の喫煙は蔓延している。高3男子の喫煙率は成人男性と、中1女子の喫煙率は成人女性と同レベルである。
2. 初めてタバコを吸った年齢は低年齢化しており、小学校低学年も当たり前である。
3. 成人喫煙者の90%以上は未成年期に常習的な喫煙を開始している。
4. 子どもの喫煙は、非行・ドラッグへの開放門戸・入門薬物である。
5. 喫煙を始めた年齢が若いほど、死亡率は高くなる。
6. 未成年者の喫煙の防止には、「タバコを吸い始めやすい環境」を作らないことが重要である。
7. 「子どもは大人の言うことは聞かないが、大人の真似はする」。喫煙しない手本（ロールモデル）を大人が示すべきである。
8. 熊本県の学校敷地内禁煙化は全国最低レベルである。
9. 学校敷地内禁煙化に賛成の、自治体首長・教育長は6割である。
10. 広島県立高校では、学校敷地内禁煙化により、生徒の喫煙による指導件数が激減している。校長の「教員が生徒の前で喫煙しないことで模範を示す効果は大きい」という言葉は重い。
11. 敷地内禁煙に伴い、教師が敷地外までわざわざ喫煙するため出て行くのは、ニコチン依存になっているためである。治療をして禁煙すべきである。
12. 喫煙はニコチン離脱症状を作り出し、イライラ（ストレス）をもたらす。喫煙はストレス解消にはならず、返ってストレスを作り出している。
13. 分煙では、受動喫煙を完全に防止できない。
14. 喫煙しないというロールモデルは、生徒の将来の命を守る。タバコを吸わないという望ましい「健康モデル」を生徒に示すことは職業的責任でもある。
15. 学校敷地内禁煙化により、教師の喫煙率減少も期待される。

キーワード： 未成年、喫煙開始、環境、敷地内禁煙、ロールモデル、手本

1. はじめに

未成年者の喫煙が後を絶たない。全国的なデータを基にすると¹⁾、熊本県には喫煙している、あるいは喫煙経験のある未成年者が約10万人いると推計される。社会の規範になるべき医療機関には、その責任として敷地内禁煙が求められる。将来を担う子どもを育てる学校には、子どもや家庭に対して規範、すなわち「ロールモデル」を示す必要がある。こ

の項では、未成年者と喫煙の問題、さらには学校敷地内の禁煙化について考察する。

2. 未成年者の喫煙についての現状

喫煙習慣は子どもたちに蔓延している。厚生労働省データによると、中1男子の喫煙率は20%、高3男子は50%を越え、中1女子の喫煙率は10%、高3女子の喫煙率は30%を越えている。高3男子の喫煙率は成人男性と、中1女子の喫煙率は成人女性と同じレベルである（図1）²⁾。

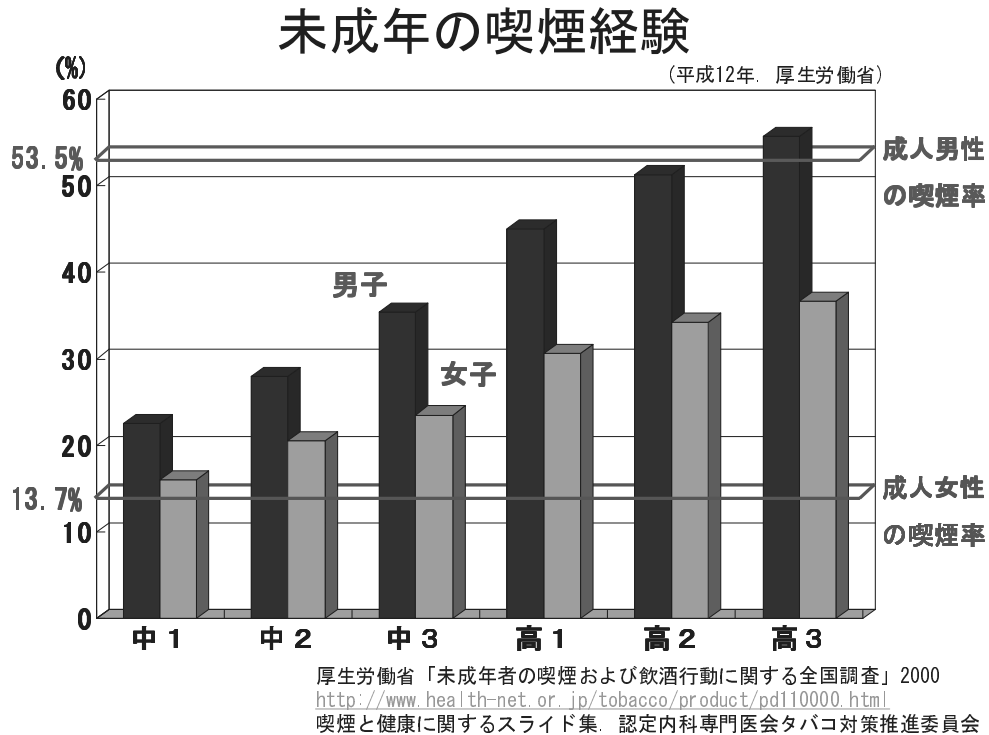


図1. 未成年者の喫煙経験

3. 初めての喫煙

多くの喫煙者は10歳前半で最初の喫煙をしている¹⁾³⁾。最初の喫煙は、社会心理的要因であり、かっこよさやスマートさ、両親・友人・学校での喫煙が意識へ与える影響が大きいと言われている³⁾。

熊本県内のある小学校で、著者がタバコを吸ったことがある子どもに対して、初めて

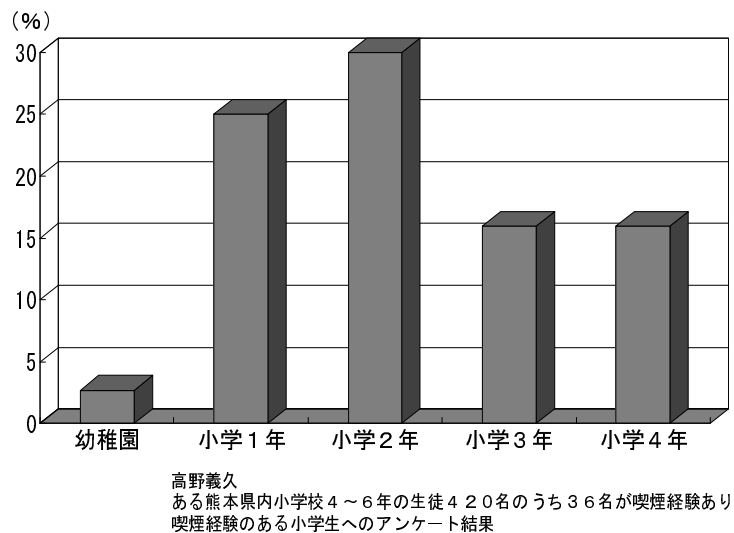


図2. 始めてタバコを吸った年齢（小学生への質問）

タバコを吸った年齢を尋ねると、小学校低学年にピークがあった（図2）。この傾向は概ねどの小学校でも同じ傾向である。子どもたちはとても早い年齢で初めてのタバコを吸っている³⁾。

箕輪らの研究結果をみても、成人喫煙者の90%以上は未成年のときに常習的な喫煙を開始している（図3）¹⁾。このデータを熊本県の未成年者人口に当てはめると、熊本県には約10万人の未成年喫煙者がいると推計される。くまもと21ヘルスプランでは、未成年者の喫煙ゼロを謳っている。この現状に対して、何も対策をしなくてよいはずはない。

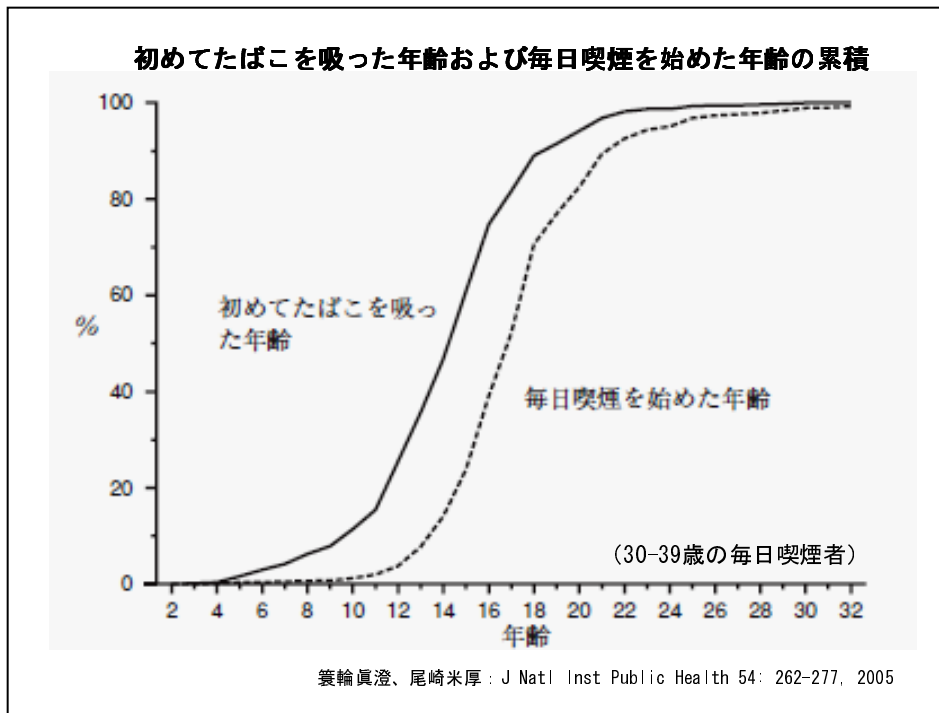
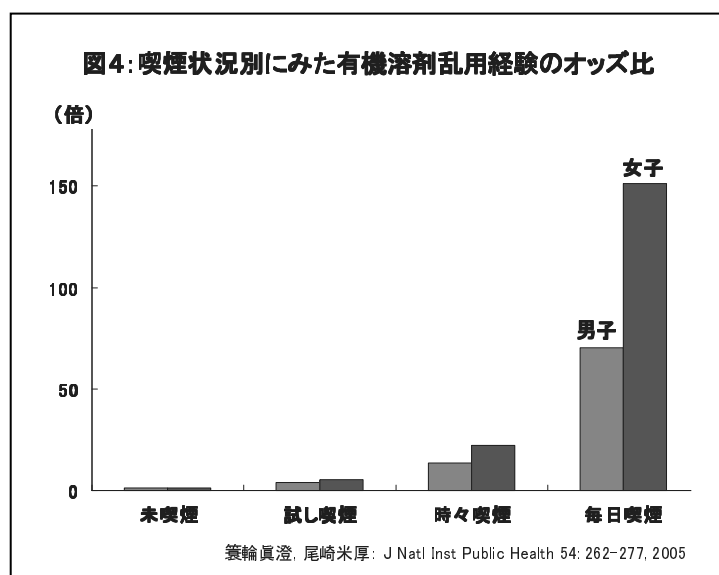


図3. 初めてタバコを吸った年齢および毎日喫煙を始めた年齢の累積

4. 子どもの喫煙は、非行・ドラッグへの「開放門戸」Gateway Drug

図4は喫煙と有機溶剤乱用経験の関係である¹⁾。喫煙したことがない中学生に比べて、毎日喫煙する中学生の有機溶剤乱用経験は、男子70倍、女子151倍にのぼる。喫煙は、シンナーなどの有機溶剤乱用につながる危険性が非常に高い。薬物には、他の薬物を乱用しやすいという現象があり、タバコは代表的な入門薬物（Gateway Drug）である。喫煙は、飲酒→有



機溶剤乱用→大麻・覚せい剤・麻薬乱用へとつながる問題がある。未成年者の喫煙開始防止は重要な非行対策でもある。

5. 未成年者への悪影響の大きさ

喫煙は、大人へも未成年者へも健康への悪影響を与えるが、未成年者への悪影響は特に強い。

図5は、標準化死亡率を、喫煙開始年齢別に比較したものである。若いうちに喫煙するほど、その人のその後の健康に大きな影響をもたらす⁴⁾。

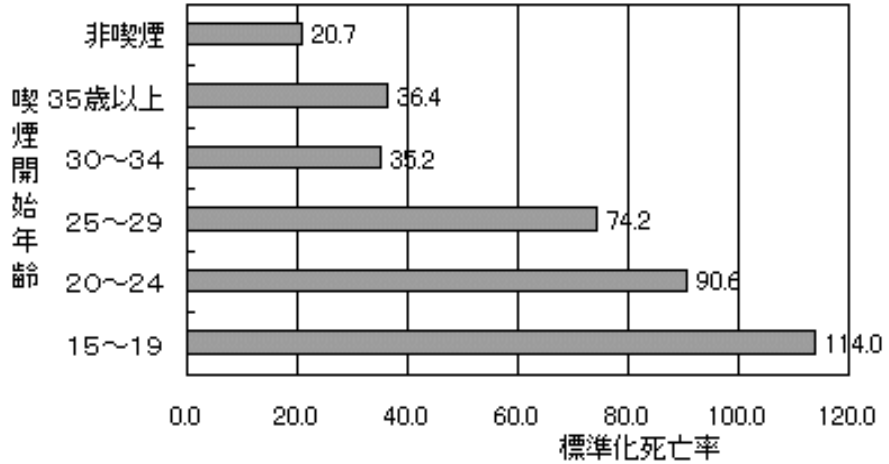


図5. 喫煙開始年齢と死亡リスク

子どもたちが「なんとなく」始めたタバコは、ニコチン依存という病気により継続させられ、子どもたちの将来をがんや脳卒中、心筋梗塞などの病気の発症により奪うことになる。未成年者の喫煙を「ゼロ」にすべくあらゆる対策をすべきである。

6. 未成年者の喫煙開始を防ぐには

喫煙は開始しないことが最も重要である。喫煙を始めてしまうと、やめることはとても大変であるが、吸い始めないことは比較的簡単である。

しかし、喫煙の害のみを教える教育では、得た知識とその後反喫煙行動にはあまり関係がないことがわかっている。

知識に加えて、必要なものは「環境」である。図6にあるように「タバコを吸い始めやすい環境」を作らないことがとても重要である⁵⁾。具体的には、親

の喫煙への態度、学校の喫煙への態度、そして健康へ及ぼす影響への知識である。子ども

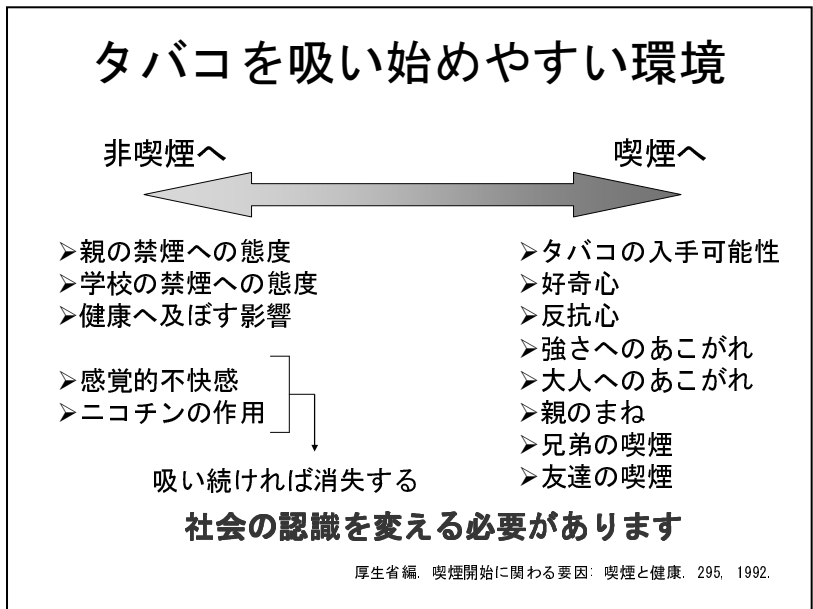


図6. 喫煙開始に影響を与える因子

にとって適切なライフスキルを伝えるべき教師や親が率先して、手本をみせることが重要である。教師や親の喫煙への態度（喫煙を容認しない、タバコの臭いをさせない、常に禁煙席を利用する等）は、タバコを吸わないように向かわせる「大きな力」になる⁶⁾。

7. 子どもは大人の言うことは聞かないが、大人の真似はする

子どもは周囲の環境に非常に影響を受ける。

「毒饅頭を食べながら、子どもに毒饅頭は食べてはいけない」と言っても、子どもは「毒饅頭はどんな味だろう」と食べようとする。子どもに対して二重基準（ダブルスタンダード）では、ライフスキルは育ちにくいのである。逆に大人がタバコに対して厳しい姿勢をとれば、子どももそれを素直に理解する。

教師の喫煙は、生徒の喫煙率を上昇させること、一方で学校内禁煙の厳格な運用が生徒の喫煙を減少させることが明らかになっている。

英国のある地方の調査結果では、規則で学校敷地内を禁煙にしている学校の生徒の喫煙率は 9.5%、敷地内禁煙をしていない学校の生徒の喫煙率は 30%、その中

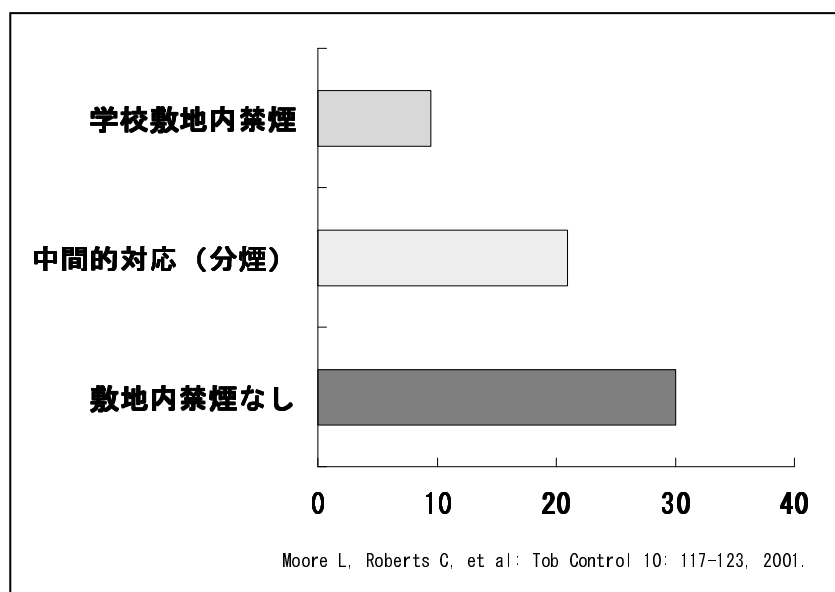


図 7. 学校の喫煙に対する態度と生徒の喫煙率

間的な対策をとっている学校では 21%であったと報告されている⁷⁾（図 7）。

禁煙の規則を設けることは「効果的な非言語的コミュニケーション手段」で、常に反喫煙の意思表示をしていることになる。子どもはいつも大人の行動をみている。大人の行動が、10 歳代の喫煙予防に有意な影響を及ぼすことが明らかとなっている。



Health Canada 図 8. カナダのポスター

図 8 の写真はカナダのタバコパッケージの写真である。ここには、“Children See Children Do” と書かれている。「子どもは大人の言うことは聞かないが、大人の真似はす

る」、子育ての格言である。

未成年の喫煙をゼロにするためには、大人がまずその手本を示すことが先決である。学校での行動は、まず学校敷地内を完全に禁煙とし、大人が喫煙する姿を子どもに見せないことである。

8. 熊本県の教育環境

これまで、多くの都道府県・地方自治体が学校敷地内を完全に禁煙にしている。日本小児保健協会学校保健委員会からは、『学校の無煙化』についての提言が発表されている⁶⁾。残念ながら、熊本県の禁煙に関する教育環境は、図9のように全国の中で最低レベルである⁸⁾。すでに全県的に全校の完全な敷地内禁煙を達成した都道府県は7県もあるのである。

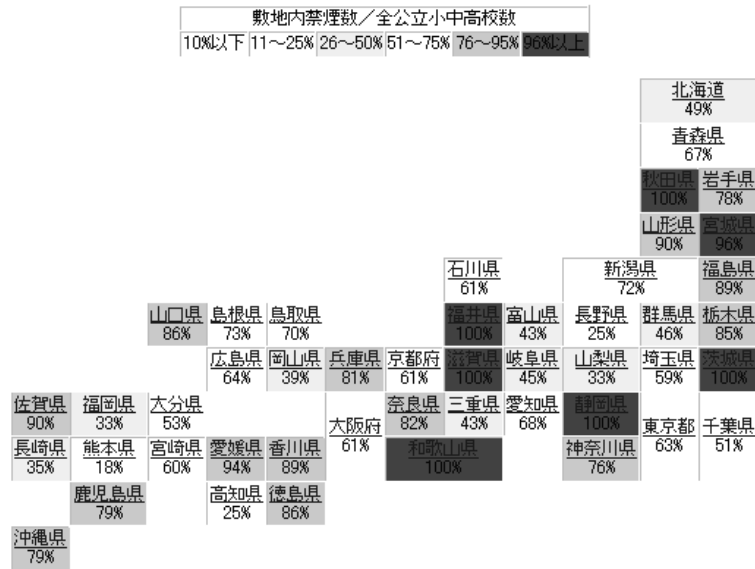


図9. 全国公立学校禁煙マップ

9. 学校敷地内禁煙化に対する教育長アンケート結果

2009年11月くまもと禁煙推進フォーラムは、学校敷地内完全禁煙化についての見解を問うべく、熊本県および各自治体首長・教育長合計96名に対しアンケート調査を行った⁹⁾。回答率は首長54%、教育長73%であった。

「すでに自治体単位で敷地内禁煙を実施している」自治体が水俣市、宇土市、阿蘇市、天草市、多良木町の5自治体であった。「今後100%禁煙を実施すべき」としたものは、回答のあった首長、教育長ともに46%であった。一方、「分煙徹底で十分」と現状を追認したものは、回答のあった首長の27%、教育長29%と約1/4あった。「すでに100%禁煙を実施している」自治体と「今後100%禁煙を実施すべき」と回答した自治体を合わせると回答者の6割が学校敷地内禁

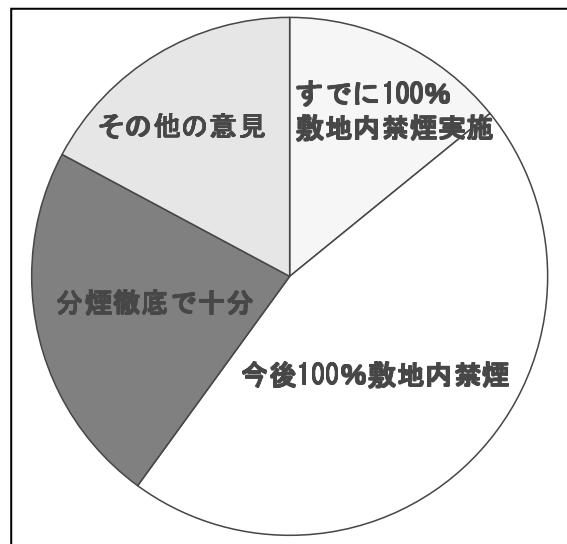


図10. 学校敷地内禁煙に関するアンケート結果（教育長）

煙100%禁煙を実施すべき」と回答した自治体を合わせると回答者の6割が学校敷地内禁

煙に賛成であった。

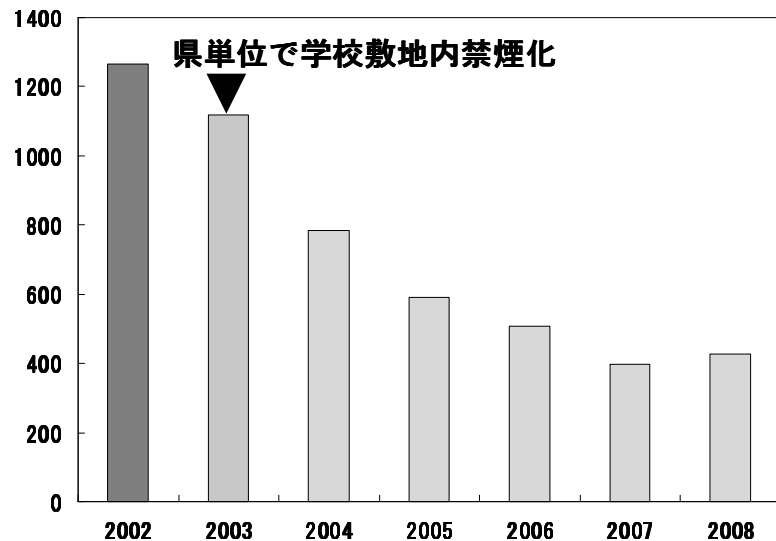
現状では不十分であり、今後さらに改革を進める意思のある方が6割おられたことは、くまもと禁煙推進フォーラムとしても救いであった。まだ敷地内禁煙化が実施できていない自治体は早期に敷地内禁煙化を進めていただきたい。一方、約1/4の方が未成年者の喫煙が問題としながらも、現状を追認していたことは残念であった。この方々には、未成年者の喫煙問題の大きさや学校敷地内禁煙化の意義は認識されていないと思われた。

10. 広島県立高校：敷地内禁煙の効果

中国新聞によると、広島県は2003年すべての県立学校に対して、敷地内を全面禁煙にするように通知を出している。

医師を招き喫煙による肺がんの危険性について学習する「喫煙防止教室」を続けている高校もあるという。このような取り組みの結果、生徒の喫煙による指導件数は激減した¹⁰⁾。

記事の中で「校内で吸い殻を見なくなった。教員が生徒の前で喫煙しないことで模範を示す効果は大きい」という校長の一言が、学校敷地内禁煙という「環境」の意義と重要性を端的に示している¹⁰⁾。



中国新聞 2010年1月9日

図 11. 広島県立高校の生徒の喫煙による指導件数

11. 学校敷地内禁煙化の主張に対する反論に対して

学校敷地内禁煙に対して、反論が述べられることがある。①敷地外での喫煙をどうするのか、②家庭での受動喫煙があるではないか、③分煙で十分ではないか、④大人のストレス解消をどうするのか、⑤喫煙しないというロールモデルは行き過ぎである、⑥敷地内禁煙で未成年の喫煙が減るわけがない、などである。

(1) 敷地外での喫煙をどうするのか

敷地内禁煙を実施すると、敷地の外にわざわざ出て行って喫煙する教師がいるかもしれない。生徒にとって先達である教師のプライドを捨ててまで、敷地外に喫煙しに行くのは、ニコチン依存症のためである。ニコチンの欲求（離脱症状）に耐えられないのである。ニコチン依存症は治療可能な疾患である（ニコチン依存症の病態の項参照）。3カ月のきちん

とした治療を受ければ、禁煙は可能である。それは教師自身の健康のためにもなる。仮に自分の意思で、好きに喫煙しているという「ニコチン依存症ではない方」がいれば、就業時間にわざわざ喫煙する必要はないはずである。就業時間外に喫煙してもらえばよい。

PTA や地域の活動において大人が学校敷地を使用する場合があるだろう。しかし、時間はせいぜい数時間である。今は飛行機や列車においても数時間の禁煙時間があるが、皆その規律を守っている。ましてやその場所は学校である。受動喫煙防止のため、生徒への手本のためであると申し出て、敢えて反対する大人がいるであろうか。敷地内禁煙化をきっかけに、生徒の親が禁煙を考えるようになれば、その親の健康にとっても、生徒にとっても大変有意義なことである。

(2) 家庭での受動喫煙があるではないか

学校でも受動喫煙があり、さらに家庭でも受動喫煙があるのであれば、「毒食えば皿まで」ではなく、せめて学校だけでも受動喫煙のない環境を作ろうとするのが教育の努めではないか。家庭がとても勉強する環境にない生徒に対して、学校だけでも勉強する場を用意しようとする教師の態度と何ら変わりがない。

(3) 分煙で十分ではないか

分煙では不十分である。

分煙では受動喫煙を完全に防ぐことはできない。①煙が拡散すること、②喫煙した教師の体や吐く息からのサードハンド・スモークの問題（「受動喫煙への暴露と健康への影響」の項参照）が解決できないからである。世界保健機関（WHO）も分煙では受動喫煙を防止できないと勧告している¹¹⁾。

分煙にした場合、学校で喫煙した教師の体や吐く息にはタバコの臭いがつく。子どもは教師の臭いを知っている。その教師は知らず知らずのうちに、非言語的手段で、「不健康のモデル」を提示していることになり、意に反して未成年者の喫煙を「推奨」することになってしまう。学校敷地内禁煙化は、世界的にみても、日本の他の都道府県においても、常識である。

(4) 大人のストレス解消をどうするのか

喫煙でストレスは取れない。むしろストレスが増えるのである。

喫煙するとニコチンを摂取する。摂取したニコチンは脳内のニコチン受容体と結合し、ドパミンが強制的に分泌される。ドパミンは快感・快楽をもたらすため、喫煙によりニコチンを摂取するとストレスがとれた

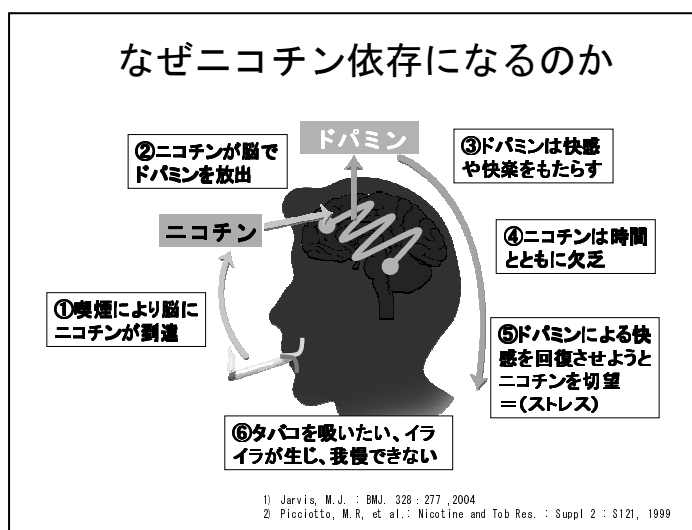


図 12. ニコチン依存の形成と喫煙サイクル

ような「錯覚」を覚える。しかし、時間とともにニコチンが欠乏してくると、次第にニコチン離脱症状（いわゆる禁断症状）が生じるようになり、イライラを感じるようになる。これが喫煙者の言う「ストレス」である。このストレスはニコチン欠乏によるため、喫煙という行為でしか解消できず、やむを得ず次の喫煙が行われる。すなわち喫煙したことで生まれたストレスをとるため、次ぎの喫煙をし、それがさらに新たなストレスを生んでいる。途絶えることのない悪循環である。

このような途絶えることのない循環を繰り返していても、元々仕事上あった本来のストレスの原因は何ら解決していない。喫煙に対する「大人のストレス解消」という意見は、医学的には無意味である（ニコチン依存症の病態の項参照）。

ところで、喫煙者は「自分の意思」で喫煙している、大人だから自分で自分の行動はコントロールしている、という意見があるだろう。調査によると、喫煙者の7割はやめたいと思っているが、実際には喫煙をやめられない。やめられない理由はニコチン依存症のためである。趣味や喫茶のように自身の喫煙をコントロールできるのであれば、1週間程度やめていてもイライラすることはないはずであるが、実際には1日簡単にやめることすら困難を伴うのである。喫煙には、盆も正月もない。喫煙行為は一見好きで吸っているように見えるが、実は「自分の意思」で行っているものではないのである。

（5）喫煙しないというロールモデルは行き過ぎである

50歳代の若さでがんのため亡くなったロック歌手は喫煙者であった。咽頭がんという喫煙と非常に関係の深いがんが彼の命を絶った。彼が喫煙を始めたきっかけは彼が好きだった先生の影響である。これまで述べてきたように、それを意識するかどうかは別にして、教師の喫煙は生徒の喫煙を助長する。若年からの喫煙はその後の死亡率を高める。教師が喫煙する姿やタバコ臭をさせないだけで生徒の喫煙は減少する。生徒の命を縮めたい教師が果たしているのだろうか。喫煙しないというロールモデルは、生徒の将来の命を守る。それは行き過ぎだろうか。

文部科学省の平成10年の学習指導要領改訂で、総則3「健康」という言葉が加えられ、「学校における体育・健康に関する指導は、学校の教育活動全体を通じて適切に行うものとする」と規定された。これにより、学校全体で健康教育を行うことが明確となり、すべての教師が「健康教育の先生」でもあるという位置付けが確認されている。

また、「健康日本21」の「タバコの対策」にも「医療関係者や教育関係者は、国民に対する模範として自ら禁煙に努める」と述べられている。「喫煙しないこと」は健康づくりの基本である。タバコを吸わないという望ましい「健康モデル」を生徒に示すことは、教職員の職業的責任と考えられる。教師がタバコを吸っている姿、さらにはタバコ臭を子どもたちに示すのはいかがなものだろうか。

熊本県教育委員会が掲げる「くまもとの教職員像」において、「教職員としての使命感と情熱を持ち続け、時代の変化から生じる新しい課題にも積極的に対応するため、常に新し

い知識を求め、実践に生かす教職員」、「互いに情報を共有し、協力し合って組織的に課題に対応する教職員」とある¹²⁾。敷地内禁煙はそのミッションに十分合致すると考える。

(6) 敷地内禁煙で未成年の喫煙が減るわけではない

前述した英国の報告(図7)においても、広島県立高校の例においても、敷地内禁煙により未成年者の喫煙は減少する。「喫煙しない環境」は未成年者の喫煙を減少させる。これは明確なエビデンスである。

12. 敷地内禁煙のもう一つの効果

喫煙者の7割は禁煙したいと思いつつながら、ニコチン依存という病気のため喫煙を継続せざるを得なくなっている。学校敷地内を禁煙にすると、それだけで喫煙していた教師の4分の1が禁煙したという栃木県でのデータもある¹³⁾。学校敷地内禁煙化は、教師が禁煙する大きなきっかけを与えることにもなる。

禁煙により、病気のリスクが減少し、健康が回復し、さらに健康を気遣う教師のご家族にも喜ばれることであろう。敷地内禁煙は、決して喫煙者への意地悪ではなく「愛のメッセージ」であると言える。

禁煙に成功した教師は、その経験を生かした喫煙防止教育、体験談を語るなど大きな役割を果たすことができる。何より学校がすべて敷地内禁煙になれば、生徒にとっても、教師にとっても、喫煙が不適切であることが、単なる言葉ではなく、態度としての明確なメッセージとして示されるのである。

13. おわりに：子どもたちのために学校敷地内は禁煙を

熊本県内の教育関係者各位には、学校敷地内禁煙を是非、熊本県でも実現していただくようお願いを申し上げます。最後に子どもの生の声を掲載する。

【学校敷地内禁煙の意義】

- ✓ 子どもたちの喫煙開始の予防のため
- ✓ 子どもたちの将来の健康のため
- ✓ 子どもたちの薬物乱用防止・非行防止のため
- ✓ 学校内での受動喫煙防止のため
- ✓ 「未成年者の喫煙ゼロ」実現のため
- ✓ 大人が喫煙しないという望ましいモデルを示すため
- ✓ 喫煙する教師の禁煙の促進と健康増進のため
- ✓ 文部科学省の要請
- ✓ 日本小児保健協会学校保健委員会の要請
- ✓ 熊本県健康増進計画(くまもと21ヘルスプラン)実現のため

(付記) 学校の主役子どもたちの声¹⁴⁾。

「すべての学校の敷地内禁煙を望んでいます」

静岡県静岡市の中学生（「婦人之友」2005年7月号）

私は今、すべての学校の敷地内が禁煙になることを望んでいます。タバコの煙はとても臭く、決していい思いをしたことはありません。職員室で先生が吸っているのを見ると、入るのが嫌になります。また、職員室の外で吸うと、その煙は窓から教室に入り、クラスの中にはそれで勉強に集中できない人もいます。私もそのひとりです。

先生から喫煙の害のことを少し聞きましたが、タバコの煙は発がん物質や肺の病気のもとになる毒をたくさん持っています。学校は何よりも生徒の健康を第一に考える所であり、勉強に集中できる場所でなければいけないと思います。学校は生徒がいるからこそ学校なのに、未成年の生徒がたくさん集まる学校で、タバコを吸うのはおかしいと思います。

先生方は、タバコは害ばかりだから吸わないようにと言いますが、その先生方が吸っていたら、何の説得力もありません。今、静岡県内の学校敷地内を禁煙化する動きが高まってきています。学校内でタバコを吸うことを願っている生徒などいないと思うので、ぜひ学校の敷地内を禁煙にして欲しいと思います。

「ほとんどの先生がタバコを吸っていて、男子生徒は学校で煙草を吸っていました」

小郡市の中学3年の女子生徒さんから頂いたメール（2005/6/2）

私は小郡市に住んでいる中学3年の女子ですけど今、煙草に関していろいろと調べているんですが、実はこの学校にはほとんどの教師が煙草を吸っているんです。しかも生徒のほとんどはそれを見てカッコいいとか言ったり、一部の男子は学校で煙草を吸っているのが教師にばれてしまい学年総会が開かれたほど煙草が身近にある学校です。

しかも私は喘息を持っているので学校では煙草を全面禁煙にして欲しいという子どもの声でした。

「喫煙は他人を気遣えば絶対にできないこと」

神奈川県伊勢原市の14歳の中学生の新聞投書（2004/4/23産経新聞より）

職場や飲食店などを含めた公共の場所で、喫煙を禁止する法律がアイルランドで定められたことを、テレビニュースで知った。

喫煙により、がんや心臓病などのさまざまな病気にかかりやすくなるといわれる。また、タバコの先から出る副流煙で、喫煙者だけでなく周囲の人の健康にも悪影響がでる。これらの害を考えれば、このような法律ができたのは当然だと思う。

しかし、日本では、歩きタバコを禁止する条例ができたり、喫煙マナーの向上を訴えるCMが流れたりするなどの対策はとられているものの、まだまだ禁煙を進める動きは弱い。

なぜだろうか。ひとつには「喫煙は個人の自由である」という意見があるためではないかと思う。そのことに加えて、私は「他人を思いやる」という人間にとって一番大切な事実が無視されているからではないかと考える。

喫煙は、他人の健康を気遣う心があったら、絶対にできないことだ。自由というのは、他人の犠牲の上に成り立つものではない。そのことを、喫煙者はもう一度よく考えて見てほしい。

「総合研究でタバコの害について調べています」

中学3年の女子生徒さんから頂いたメール（2003/11/4）

中学三年生の女子生徒です。

私の通う中学では、男の先生方の大半がタバコを吸っています。授業の前や、休み時間、私達の目を盗んで吸っていて、とても臭いです。今総合研究で、「タバコの害」について調べているのですが、タバコ以上に体に害を、及ぼすものは、ありません。

タバコを吸ってる人よりも、タバコの煙をすっている人の方が、有毒だなんて、考えただけで、ムカツきます。

つい最近、父がタバコをやめました。家族で説得したおかげだと、思います。世の中でタバコを吸う人が、早く減る事を、願います。

「先生の禁煙が続いています！」 小学6年生から頂いたメールの続報（2003/6/3）

この前、この掲示板に僕の意見が載ったので、印刷して担任の先生と校長先生に見てもらったら、先生は禁煙を約束してくれました。禁煙してから2週間ですが、ちゃんと続いています。今週の総合学習ではタバコの害と誘われたときの断り方などを学びます。

ぼくの知っている小学生でタバコを吸う人はいないけど中学生の兄ちゃんにはいます。どうして毒なのに吸うんだろうと思います。母さんは病気持ちいにやめられなくなるのよ。でも自分のため、人に迷惑をかけないため、やめなきゃね、と言っていました。

“先生の喫煙室を生徒に掃除させていた学校” 高校1年生から頂いたメール（2003/5/2）

はじめまして。私は現在高校1年になる女子です。

私の通っていた学校には、以前喫煙室なるモノがありました。喫煙室があることは良いと思うのですが、ですが…。なんとその部屋を掃除するのは生徒なんです。

すごく意味がないと思いませんか？いくら違う部屋で吸っても、その中に生徒を入れてしまえば目の前で吸ったも同然だと思うのに。

先生方はそんなことにも気付いてないのか！と叫びたくなりました。本当に生徒達の健康、成長を考えてくれているのなら、「こうしているんだから大丈夫」という安易で自己満足的な考えを持たないでほしいです。

学校とは少し離れますが、私の親もかなりのヘビースモーカーです。幼い頃からその煙を吸っていたせい、私はひどい喘息持ちになってしまいました。小学校の頃はマラソン大会や普通の体育でさえ、みんなと一緒にできませんし、季節の変わり目におこる発作のために入院することも度々ありました。

今はだいぶ体の方も強くなってきてはいます。発作もだいぶ回数は減りました。でも、煙草が子どもに与える影響は多大です。そしてみんなと同じ事ができない子どもの寂しさはそれ以上に大きいのです。教師でなくても、世の中の喫煙者の方々にご理解してほしいと私は思います。

今年度から私の学校でも、完全に学校禁煙が行われるということで大変嬉しいです。

「タバコは吸わせないと思っているなら身をもって証明して欲しいと思います」

中学3年生から頂いたメール（2003/3/18）

はじめまして。ただいま中学三年生の〇〇〇〇と申します。子どもの声に載せて頂きたくメールをしました。

私の学校では全然先生たちの、禁煙対策がされてません。それどころかベランダに喫煙スペースが設置されています。私のクラスの担任はヘビースモーカーです。とってもタバコ臭いです。それなのに授業では（担任は保健体育の先生）「タバコは体によくない。」と教えています。はっきり言って全然説得力がありません。

しかも、歩きタバコの話をして「俺はこうやってタバコがほかの人に当たらないように持ちながら歩いている。」など、「携帯灰皿を持っているから平気だ。」などと力説しています。根本的な問題が間違っていると思います。

タバコは吸わせないと思っているなら身をもって証明して欲しいと思います。

先生、吸うなら場所を考えて 13歳中学生（2001/8/22 毎日新聞投書）

タバコについて嫌な思いをしたことが何度かあります。そのうち、一番不快だったのは、授業中にタバコのおいがして気分が悪くなったことです。

授業前とか、授業がないとき、先生たちは、職員室の外でよくタバコを吸っています。そのとき、その先生は授業前にも多分、タバコを吸っていたのだと思います。

私は教室で一番前の席に座っていたので、特にひどかったんですが、授業中にタバコのおいがして気分が悪くなりました。一応我慢していたのですが、50分間もそんな状態だったのでその授業中はかなりきつかったです。

しかも、1人の先生だけではなく、何人かいるのです。学校には、タバコを吸うことを禁じられている未成年が圧倒的に多いので、気を使って欲しい。

タバコを吸った後、残ったにおいに迷惑している人がいることを喫煙者の皆さんに知ってもらいたいです。

参考文献

- 1) 簗輪真澄、尾崎米厚：若年における喫煙開始がもたらす悪影響。J Natl Inst Public Health 54:262-277, 2005.
- 2) 厚生労働省：最新たばこ情報。未成年の喫煙。
<http://www.health-net.or.jp/tobacco/product/pd110000.html>
- 3) 喫煙開始にかかわる要因。喫煙と健康，厚生省編，pp295-298，1992.
- 4) 厚生労働省：Q&A 未成年者の喫煙について。資料：平山らによる調査（1966-82）。
<http://www.mhlw.go.jp/topics/tobacco/qa/detail5.html>
- 5) 日本内科学会旧認定内科専門医会，タバコ対策推進委員会，禁煙講演スライド作成部会（部会チーフ：高野義久）。喫煙と健康に関するスライド集。内科専門医会誌 18(Suppl)，2005.
- 6) 日本小児保健協会学校保健委員会：未成年者の喫煙を無くすための学校無煙化推進。
<http://www.jschild.or.jp/com/031113.html>
- 7) Moore L, Roberts C, et al: School smoking policies and smoking prevalence among adolescents: multilevel analysis of cross-sectional data from Wales. Tob Control 10: 117-123, 2001.
- 8) 原田正平：全国公立学校禁煙マップ（厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業）。
http://www.kawasaki-disease.net/~kinen/school_map.php
- 9) くまもと禁煙推進フォーラム：学校禁煙化に関する自治体首長・教育長アンケート。
http://square.umin.ac.jp/nosmoke/09education_result.xls
- 10) 中国新聞：県立高生の喫煙が激減 広島。平成 22 年 1 月 9 日。
- 11) World Health Organization (WHO) : 10 facts on second-hand smoke.
http://www.who.int/features/factfiles/tobacco/tobacco_facts/en/index4.html
- 12) 熊本県教育委員会：くまもとの教職員像。
<http://www.higo.ed.jp/bedu/syokuinzou.html>
- 13) 毎日新聞：敷地内禁煙が奏功 喫煙教職員、4分の1やめた。平成 15 年 7 月 16 日。
- 14) 山岡雅顕：学校の禁煙，子供の声。
<http://nosmoke.hp.infoseek.co.jp/gakkou/kodomo.htm>